

製品名: ARG1 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM82639**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|---|
| 説明 | マウスモノクローナル抗体 |
| 宿主 | ねずみ |
| 応用 | WB,ICC,ELISA,FC |
| 反応性 | 人間 |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | Mouse IgG2b |
| クローン性 | モノクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|--|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,ICC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400 |
| 分子量 | 37 kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|--|
| 遺伝子名 | ARG1 |
| 別名 | arginase 1 |
| 遺伝子 ID | 383.0 |
| SwissProt ID | P05089 |
| 免疫原 | 大腸菌で発現したヒト ARG1 (AA:1-322) の精製された組み換え断片。 |

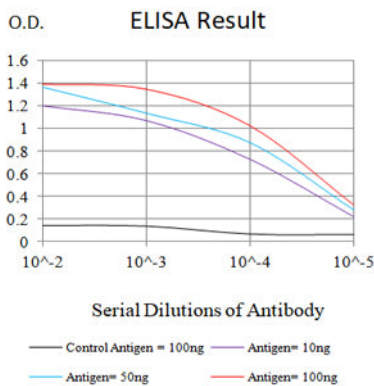
背景

アルギナーゼは、アルギニンをオルニチンと尿素に加水分解する触媒作用を担う。哺乳類アルギナーゼには少なくとも 2つのアイソフォーム (I型とII型) が存在し、組織分布、細胞内局在、免疫学的交差反応性、および生理学的機能がそれぞれ異なる。この遺伝子

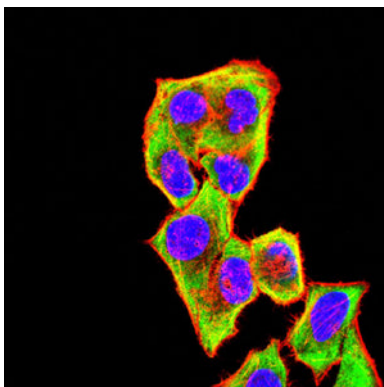
によってコードされるI型アイソフォームは細胞質酵素であり、主に肝臓で尿素回路の構成要素として発現する。この酵素の遺伝性欠損は、高アンモニア血症を特徴とする常染色体劣性疾患であるアルギニン血症を引き起こす。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする2つの転写バリエーションが見出されている。[RefSeq 提供、2011年9月]

研究分野

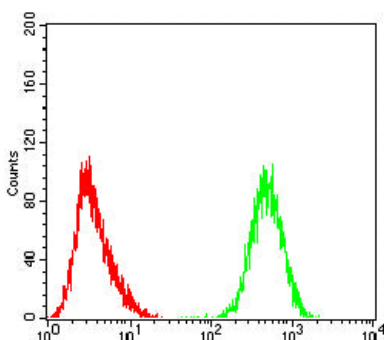
画像データ



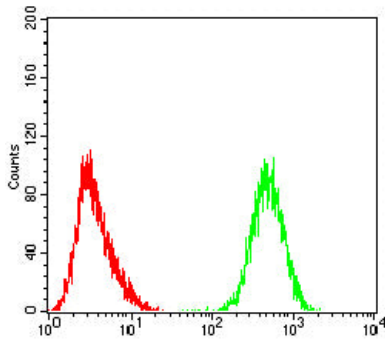
黒線: コントロール抗原 (100 ng) ; 紫線: 抗原 (10 ng) ; 青線: 抗原 (50 ng) ; 赤線: 抗原 (100 ng)



ARG1 マウス mAb (緑) を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。青: DRAQ5 蛍光 DNA 色素。赤: Alexa Fluor-555 ファロイジンで標識されたアクチンフィラメント。



ARG1 マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した BEL-7402 細胞のフローサイトメトリー分析。



ARG1 マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した HepG2 細胞のフローサイトメトリー分析。